定例研究会要旨

報告テーマ「農山漁村地域における経済構造の変貌に関する研究」

DC2　平口嘉典

昨今、農山漁村地域においては種々の問題が発生している。経済的な側面では、農林漁業を中心にした基幹産業の衰退や中心商店街の形骸化、社会的な側面では、少子・高齢化、人口減少やコミュニティの衰退、環境の側面では、森林の荒廃、畜産ふん尿の処理問題、海洋汚染、といったように、問題の性質も多岐にわたっている。これら問題を解決していくことが、地域の衰退に歯止めをかけ、地域全体の活性化につながると考えられる。

しかしながら、こうした個別の問題に対して、対症療法的な対処では地域社会の根本的な問題解決にはつながらない。地域問題は地域経済の発展メカニズムの下で発現していると考えられ、このメカニズムを明らかにし、何が問題の核心かを知ることは、個別的な問題への対処にとって重要である。

そこで本研究では、農山漁村地域の経済メカニズムを明らかにするために、地域の経済構造を対象にし、特にヒト・モノ・カネの地域内循環に着目しながら、その史的展開を動態的に分析する。今回の報告では、分析に先立ち、本研究の分析枠組みの検討を行う。検討すべき課題を以下に挙げる。

第一に、地域の範囲である。一般的には、集落から県域までその範囲は滝に捉えられるが、本研究では農山漁村を全体として捉えるため、流域圏を対象とする。ただし統計データの得やすさから、流域圏をカバーする行政区単位を便宜的に地域とする。

第二に、経済構造の捉え方である。ここでは、産業大分類別にそれぞれ、従事人数、生産額、流通ルートを把握し、それらを時系列的に捉えて、経済構造の変化を見る。

第三に、地域内循環の捉え方である。これには、各産業の原料調達ルート、および地域生活者の消費ルートを調査する必要がある。

第四に、対象とする時間的範囲である。ここでは、地域問題の顕在化・深刻化に至った高度経済成長期を含めて、主に戦後から現在までを対象にする必要がある。

第五に、経済の発展に伴う自然資源利用の変化である。一次産業が用いる自然資源が経済構造の変化とともにどのように利用されあるいは放棄されてきたのか、については経済メカニズムと環境問題との関連を知る上で重要である。

以上の点を踏まえながら、既往の地域経済論のレビューを行い、本研究の独自の分析枠組みを提示する。

参考文献

長谷川秀男『地域経済論』、日本経済評論社、2001.

野原敏雄『日本資本主義と地域経済』、大月書店、1977.

矢田俊文編著『地域構造の理論』、ミネルヴァ書房、1990.